

1. モデル園の選定

- ・保育ニーズの増加や就労形態の多様化に伴い、より長い保育時間のニーズが高まっている。
 - ・公立幼稚園型認定こども園の開所時間については、8:00～16:30と短いため、保護者の選択肢となりづらく、在籍率が減少傾向になっている。
- ➡ 上記の状況を受け、公立幼稚園型認定こども園の開所時間の延長を検討する。

小規模保育施設との関係

- ・小規模保育施設については、両駅周辺半径1.5kmの範囲で公募している。
- 小規模保育施設の卒園児の受け入れ先となるためにも、当該エリア周辺に立地する公立幼稚園型認定こども園であることが望ましく、該当する園は4園（老上、玉川、笠縫東、矢倉）である。
- ・過去3年間の小規模卒園児の居住別内訳から老上学区の割合が高いことが見て取れ、卒園後の3歳児の受け皿を確保する必要性が高い。

利用状況の観点から

- ・上記4園のうち、空き教室が3教室空いているのは、現時点で玉川こども園のみである。
- ・玉川こども園に近接する民間園において、老上学区居住の児童が多く在籍しており、一定、老上学区の保育需要の受け皿とっていることが確認できる。
- ・玉川こども園は、公立幼稚園型認定こども園のなかで最も在籍率が低いため、受け入れ拡大余地が大きく、待機児童対策として効果的に働く。

【過去3年間小規模卒園児居住別内訳】

小学校区	R 5		R 6		R 7	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
老上	36	26.4%	33	21.0%	40	24.0%
草津	7	5.2%	15	9.6%	21	12.6%
笠縫東	15	11.0%	13	8.3%	19	11.4%
草津第二	26	19.1%	23	14.6%	19	11.4%
渋川	3	2.2%	13	8.3%	15	9.0%
志津	6	4.4%	15	9.6%	10	6.0%
笠縫	8	5.9%	8	5.1%	8	4.8%
矢倉	11	8.1%	11	7.1%	8	4.8%
老上西	3	2.2%	6	3.8%	7	4.2%
玉川	11	8.1%	5	3.1%	6	3.6%
南笠東	0	0.0%	5	3.2%	6	3.6%
山田	4	3.0%	8	5.1%	4	2.4%
志津南	2	1.5%	1	0.6%	3	1.8%
常盤	4	2.9%	1	0.6%	1	0.6%
	136	100.0%	157	100.0%	167	100.0%

2. 開所時間

➡ 開所時間…8:00～16:30を**7:15～19:00まで延長**する。

- ・小規模保育施設の卒園児の受け皿とするため、保育標準時間認定（11時間）を受け入れる時間設定が必要となる。
- ・他の公立保育所・公立幼保連携型認定こども園と同様の時間設定とする。

標準時間認定の利用可能な保育時間 … 7:15 ～ 18:15

※18:15～19:00は延長保育対応

短時間認定の利用可能な保育時間 … 8:30 ～ 16:30

※7:15 ～ 8:30および16:30 ～ 19:00は延長保育対応

教育認定標準時間 … 8:30 ～ 14:30

※8:00 ～ 8:30および14:30 ～ 16:30は預かり保育対応

3. 利用定員変更

➡ **保育の定員を増やし、教育の定員を減らす。**

	3歳児		4歳児		5歳児		教育計	保育計	園児数計
	【教】	【保】	【教】	【保】	【教】	【保】			
現状	45	5	53	7	55	10	153	22	175
R9年度	25	25	53	7	55	10	133	42	175
R10年度	25	25	35	25	55	10	115	60	175
R11年度～	25	25	35	25	40	25	100	75	175

- ・玉川学区の教育需要に対応する定員を確保しつつ、現場の負担にも考慮した保育定員として25人に設定し、後年度においては、進級枠分25人を確保する。

4. 見直し時期

➡ **令和9年4月から**開所時間を延長する。

- ・令和8年4月に開園した小規模保育施設3施設の新規入園児が令和9年3月に卒園することを踏まえ、上記からの延長を実施する。

➡ 上記のとおり、小規模保育施設との関係や利用状況等の観点から、**玉川こども園**をモデル園として選定する。